

基本理念	基本目標	分野	福祉課題		具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取り組み
「住んで良かった！ 住みつけたい！」 皆にやさしい町 黒髪	健全な大人に育てよう！	子ども・子育て	・子育て家庭の孤立防止 ・地域とのつながりの希薄化（転勤族、外国人世帯等も）	・赤ちゃん訪問ができず転入してきた子育て世帯のつながりが希薄 ・子育てサークルやネットワークの中止、子育て支援センターや児童館が閉鎖し、仲間を作ったり、育児相談できる場が減っている。 ・子育てサークルや子育てネットワークの参加メンバーが固定化しており、多くの方に子育て支援が行き届いていない。	・子育て家庭へアンケートを実施し、ニーズを把握する。 ・子育てサークル・ネットワークの啓発 ・子育て家庭が気軽に集まれる場所づくり（地域食堂等）	２０２２年度・・社協と各団体との交流をメインにし、それぞれの団体のニーズを把握する。 ２０２３年度以降・・把握した内容をもとに下記の項目をできるところから実施していく。 ①見守り隊を各町内で実施（登下校の見守り、危険個所点検と看板設置） ②学校、ＰＴＡとの情報交換 ③子ども会と老人会の交流（春：合同花見　秋：ピクニック　冬：焼き芋会　春、夏休みの朝体操） ④放課後児童との交流（勉強、図書館の利用、遊び、学力向上の手伝い、学生ボランティアとの交流） ⑤子ども食堂の開設（企画・運営・食材確保[契約農家、都市型農園]） ⑥乳幼児施設との交流
	生き生きと明るく！	高齢者	高齢者の心身健康の維持・孤立防止	・中央区と比較して、要介護・要支援の割合が高く、高齢者の心身健康の維持・向上に向けた取り組みが特に重要。また、コロナの影響で外出の機会が減り、人とのつながりの減少、体力の低下が起き、さらに要介護・要支援者やとじこもりの増加が懸念。	・地域住民同士での高齢者世帯の見守りの強化 ・屋外での健康づくり活動 ・自宅でできる介護予防体操の普及啓発	（孤独）高齢者への対応 ①生き生きサロンの活性化　②お助け隊の結成と活用　③定期訪問、声かけ訓練　④都市型農園 ⑤学生ボランティアによるスマホ・パソコンの講習、支援　⑥孤食支援、弁当の販売（ふれあいランチ） ⑦後見人の育成と活用　⑧命のボタン 皆が喜ぶ敬老の集い ①マナーリ化を防ぐ工夫 災害対応 ①要援護者と支援者とのつながりづくり　②避難通路、場所の明示
			高齢者の社会参加	・地域活動への高齢者の参加が積極的。また、通いの場も多くあり、高齢者の方々が集える場が多い。今後も高齢者の方々が活躍できる場を作るとともに、世代間交流の場等を設けることで新たな社会参加の場を築くことができる。	・通いの場の運営支援 ・高齢者の方々が得意なことを活かせる場をつくる	
	皆の力で明るい生活を！	障がい児・者	・地域住民と障がい者の関わりが少なく障がいについての理解も低い。 ・障がい者の生活支援と社会参加	・校区内の障がい者となじみの関係になる機会があまりなく、孤立されている事がある。 ・地域の方は、障がい者や関係する機関と直接関わる事が少なく、具体的にイメージできない。	・障がいがあっても、地域に居場所や出番がある事が必要であり、地域の行事やボランティアに参加できるよう促していく。 ・障がい者への関わりや対応についての普及活動（研修会等）を行う。 ・校区の会議や活動に参加し、現状（障がいに関する事）を地域の方々にお伝えしていく。	個人情報に関する取扱いに配慮して、各町内の障がい児・者の実情を把握する。 ・民生児童委員による訪問調査　面会を通してコミュニケーションを育む。 ①障がい者がいる家族への支援 ②障がい者施設の見学 ③障がい児・者との交流会 災害対応 ①要援護者とのつながりづくり　②避難通路、場所の明示
			・災害時を想定した日常生活 ・校区における障がい者に関する実態把握（人数、生活）が不十分である。	・校区には、いざというときに、「避難行動」に移せない方達や、助けてほしいと手を挙げている方もいる。 ・校区において障がい者の実態（人数、生活）が分からない。 ・個人情報等の問題もあり情報収集できていない。	・「避難行動」を目的としたつながり、仕組みづくりを行う。 ・個人情報に関する取り扱いを厳守し、本人の了解を得て情報の取得をしていく。 ・校区の会議や活動に参加することを通じて、地域住民の方々と一緒に障がい者の実情を把握する。	
	安心と安全な黒髪準備で	災害・防災	災害に備えた平時の見守りと避難行動計画作成	・対象者及び個別計画等の整理ができていない。 ・水害への備え：白川と坪井川に面しており、ハザードマップでも坪井４・６丁目は洪水の危険性が高い。	・災害時に支援が必要な方と近隣住民のつながりづくり ・個人の避難行動計画作成 ・災害対策基本法の一部を改正する法律についての周知 ・地域版ハザードマップ（浸水や土砂崩れ等の起きやすい場所や避難所の把握）の作成または周知	・校区内にある７か所の指定避難所の運営委員会との交流 ・個人の避難行動計画作成に向け、校区防災連絡会と連携を図る。
			防災意識高揚に向けた取り組み	・避難に関する行政情報の伝達と理解不足 ・避難タイミングについての整理不足 ・地域の危険個所情報の周知不足		
	新たな健康的な担い手づくりと育成	その他	住民同士の交流・地域の担い手不足	ボランティアに積極的な学生がいる。	学生の町としての特徴を生かす	「子ども・子育て」－④との関連 ・ボランティア大学生とのつながりづくり・eスポーツ「高齢者」－⑤との関連 ・大学生によるスマホ、パソコン講習会・eスポーツ・心配ごと相談所 ①生活習慣病に関する研修会の実施 ②特定検診・がん検診を受診するよう啓発活動を実施
			成人期の心身健康の維持	・黒髪校区は心疾患での死亡率が中央区と比較して特に高い。また、４０～６４歳の死亡率も中央区と比較して高い。運動習慣のない人が５割を超えており、特定検診受診率も３割満たない現状がある（国保データ）。また、がん検診も３割満たしてない（熊本市がん検診）。生活習慣病の予防や、特定検診・がん検診の受診による早期発見と早期治療がこれらの改善につながる。	・生活習慣病の予防に関する普及啓発 ・特定検診・がん検診の受診勧奨	